五元集

まろの歩合

利

是より別して勝負を決
立ての心は英雄の臣を以
て地を守る所神妙也
卯境の祭をあらする第一
成度とて白綿つきの
放ちを東はお坂山南は
立田西は宍生山有乳
乃鎮護をたゝえ先一ツ
の形書を認る事
治雞坊乃何某筆を
取て田饒の詞をかく蘇
祭り謀を題して神明

納受の志を乃[illegible]
剛の清水を[illegible]て頂禮

三十六合

春風[illegible]も家雞乃麾
二字と決

佛節會[illegible]の家鴨哀 底下
是よりの音乃新手歌仙
乃左坐[illegible]と[illegible]る空の天鶏

て療を[illegible]軍配い[illegible]
曲を[illegible]
右み[illegible]
[illegible]の家鴨哀
牝雞乃斬[illegible]
留主居役[illegible]付[illegible]て
附[illegible]其身の立居重く大
声を[illegible]て勤番[illegible]
道戯て[illegible]る傳[illegible]
[illegible]乃笑[illegible]

廿七日

桃花雨を竹の葉乃みとれ足　其角
二字トス

五六間迯てゝ返る尾ぬき
乙字ヶ浜

清明の節大雨ときりて思ふ
敗軍沢稲麻竹葦に入乱
ぬれもの去るゝ尾ぬきかゝり
何ものゝ去るゝ落書

雞去(テ)昼竹葉を書
捨ゝ見ゝ山汎の僧雪乃
磯匂ひ犬走生(テ)梅花とゝ

對たるを時ふるて用ひる
とゝ桃花雨ふるゝ羽翼
ハ醜しとゝ晴て後
男涙乃ゝ色
一ゝ尾(ウラ)を返して返しなからも
乃鶯ゝゝを尾花涙
廿八合

白綿付乃黒て仕て取巳日
乙字

桃節句ゝ尾ぬきとゝ枚の塒百之
異出乃男ヵ白綾のふんどし

先行て出んを出るれば願角
乃ち心なるら酒陶氏とんゆう
立髪枝乃葉にちみち桐骨
つんりとして卯斗樽のるくれく
ふるふる桃花の酔ちんと巳乃
日の精を後力量いくなるん
卅九合

くゝ心桐迫をいる　鳥甲
捕距出とる
鶏関の色並をなる枝　撫もお　素琴
乙字ふる
中入しまたるふみ房乃

後見ん心得ん業也冨士の煙
乃かひ心なるんん力かひなく歯うみ
きるをとし牝雞晨鳴をし
ゆるとをいるることを伝く伝を象も
ゆく先をうを鹿必ちるといふる詞を
ちるを撫も心をつけて先く
しむ乃力乃出る寂中なるを
四十合

茶筅尾の鑽をたくいるみうれ　習奥
左右ひ字
為みきを當ふ　みも　距　於　其角

茶瓶蛟にうるる尾にうるる心
二十二番乃ちゝ色も手弱き
方也てかつしの雑言乃つのハ
崩口ちゝ乃色ちゝそおとゝ
四十一合

鼻ふさゝを味方へ引や番　椒　雪花
也ゝ

油乃殿空辞ハてうる庭　堇
二字
巖乃水ゝ舌ゝ三伏の番椒
に鼻ゝ汗次辛烈乃氣忽ち
頂平へ通てあふ血のるる

男寒相撲急うるるあ紛ハ
味ゝ次ゝうてもうるうるふ
空辞てつきたる次手もあり
それハ不乃心うけるとハ
はけて本意をを也
ハッ立七ッ起ハ関乃東の兵
卯十二合

兵と都もうるるトミ呼乃　何虹
二字次
足白鶴乃鶏ロ也乃負て傍
桃李不言乃詩兵と褒美の上

うつ州丈を[illegible]る一言誠は
かしけ[illegible]トミとよひ出されて
桟鋪より此花をこ[illegible]
足田の[illegible]宋ハ伊勢の国
是乃裏ハはもりきしあくをる 慈鎮
はふよせてもはふりつり
成乃高さに松詞を置れくり
はふしつくるの[illegible]
軍丸のともいひつけ侍ると和
きをもふこうつる丸の[illegible]
[illegible]の評判かくふ
[illegible]家乃ゑん世界あるへらる

卯十三合

いとめ きゝ木乃芽をかく距ル右此

胡葱 ねぎ 三字ハ次ハ誓古問
是彼引用伊勢物語
雞乃坊主のくるる若如ル 間指
先蹤正 [illegible]
垣を勇ふて問を合まとこ
なるめとその人ハ[illegible]
右ハ時節お慮乃むすび世也

貢手八味噌をつきまるとりつも
いかすき巧言世方この糜貶呆
なるをてしいは酢乃過きいると
罵られぬるをまるそれをもと
砂味噌
廿四合

八乃字のさたの寄事て馨醒
左右乙字
嵩利を毋ひのあ蚯蚓孔弓子
醉をいひさむとりつ好悪の
詞をして呆うるりなもも

朱冠ひとよりは距をに来なると
ひとふるものの性得自然すしそく
ぬるひなるつ文河津殿の貸ま
一万箱王毋ふのるなると甘毋唐をと
備えて毋衣とりつ羽袴をませ
るるたるつ樊噲をもなるむ
まるの丁
卯十五合

血盲乃茂庖の体をえぬ寄耕竜 椿孤
毛
尾雫も緋桃を添てをるいう百猿
二字をに

雞籠の山時ならぬ日ぐれ
去る頃間こゝてうゝみ音を
啼うつをみちのし蜜柑の皮青の
紗代の重ねるとかゝ籠に入れ
是をつゝひて三羽と知る口惜かり
血盲也若武者ふたりも見て
かけ作るもをの冠をきそひを
て紅桃乃雪もぬらむ
冠重呉天雪ふるかゝて
楚地乃花もをの〳〵
かとい書て後しるんゝ
四十六合

撫物を兎羽乃下ゝ難波寺
二字ゝ空　毎閑
南京乃引音を猛て水ゝ空
乙字ゝ
天王ゝの拾物後記ゝ
所大坂矮雞の下ゝ手に
なし〳〵ゝ今ゝも兎羽ゝて
四尾ゝ白ゝ也煙
是源氏の墻〳〵南京の小太郎
ゝ丈ゝ
引音を大勢を合けゝふ
中ゝ水天ゝて千ゝ

乃反ふたたび関路の名も
声々にすゆ
卯十七合

足病乃かしは事や 腎 疲 花月
乙字

朱冠癰に洞ヲ三月待れ名
烏医叩の口足やみ乃いと手
腎折 失盡てきむ方ち
是當分乃弱き色い手なふ
あつかゝ名ゝ冠癰希有に
しゝ六ケ浦 病や 労 鼻 ゝ 病

鷹氣鬱ゝ寒苦鳥 風 乃
多ゝい良藥を得名 蜜
ゝ此病ゝと漢家乃
癰 癰 多の 青 茅に
ゝ 命 運を 全 ゝて
かゝねて軍ゝ名ゝ
四十八合

陰を蹴て巴を負 暗気 喰 笹分
乙字

雞 能ゝ二人 靜を合ゝ
戴冠文ゝ

此牝頁を[illegible]七[illegible]
迫[illegible]
[illegible]は名[illegible]
なる[illegible]
樓燦[illegible]
乃[illegible]
けん其場[illegible]
[illegible]三芳野乃奥[illegible]
[illegible]菜畠[illegible]放[illegible]美雞[illegible]
[illegible]徒[illegible]
影を作[illegible]
合[illegible]

[illegible]二人 静
卯十九合

沼津[illegible]足高山 犬 櫓 主朝
[illegible]
[illegible]
清[illegible]関取乃血脉原[illegible]
[illegible]宿[illegible]景利[illegible]
共[illegible]
名[illegible]君[illegible]同[illegible]
[illegible]目出[illegible]
[illegible]

傷芳野唐土もろこしの
翅ハ薫物し　孔紅粉化粧して
花美をふんで心をふかめ
迷をはなれさい後法度ハ家と
なりもみなかぶ放ちやりぬかの
箒ハの美をハ
身のくるをあけくるふなるて物ふ
とりかさねてそ音もなのれなる
うつをみ乃ふ奇也此心よりふ
とを

五十合

傷口ハ推るも啄くも嘴て門
戴冠文トス
傳大士を雞驚うゑひ〻跪合　依以
今ハ寺こ乃雞を召ゑ推敲
三年の執ハすて推ハ力啄
ハ品也韓退之昌を相手
て以鳥鳴春と世上ハ
らをこ〻輪廻乃三影う
ゑまきゑをゑ刮て
きいこ場ゑ
乃狂ひ

五十一合

柏手あかつ色てをとかハ臭負　辰下

左右色とかし

尾とる影隠りとり放雑　百之

社頭ノ雑かよき寄合此

をきつかんとの柏手ゝ松柏の

霜ハ後きをとるとも各浪入

角力ちれは笑ものあり

神山乃柏乃平手とうとき

笑番もの

五十二合

唯狂ゝ血臭ひ皆を此ゝ雪花

五字

頭畢凡赤きゝ酒乃いとかも雪花

捕距武

乃も叫とも共言しかる業を

得て舞すゑとし瀧とゝ傘

いとうとうとうきとも

月とう床冠とはとうとう

出とう頭ゝとう今ふとう

此鬼酒をカとゝ共かれハ佛カ

とらひ神力をとうとも

あるかとうとうとう

五十三合

[illegible]

左右ひ字

筋肇乃破軍をとる和花の軍 志水

[illegible]

ひ字 水字 [illegible]

仏肇の星乃[illegible]

手合乃[illegible] 左切字屋

花とる槍花乃陣をとる

[illegible]

五十四合

引色も日出の煤乃塒鶏も

五字

相羅羅乃勢を越へ花曇り 習奥

[illegible]

[illegible]色とかよ[illegible]詞 正廣

日頃の袖とらし[illegible]引合を

向上乃[illegible]雑人暁の唱

[illegible]声明王の眼を驚す

[illegible]王の羅乃花軍

一[illegible]合を[illegible]

[illegible]

五十五合

雑頭乃追手ハ梁の紅葉ハ 筋分

也

土餅ハ豆腐ハ君ハ獻 雁子

二對乃名目ハ立ハ賀ハて

はなちつゝ所なり是ハ

雑煮ハ同しさしの紅葉負

ハハ丈品ハ花ハ色

紅葉鳥鹿ハ加ハ色

新家の図者場ハ食ひて

乃うとうとうふ力 繁

角乃ハ他ハ色ハ

餅ハ豆腐の和ハ

葛葛の白ハ

五十六合

時下に後悔ハ 跪合ハ百樣

七字 右二字

堀地乃泥を 嬬の鉄輪ハ

むうとうふる 樗の糸にのり

て 睡ハる人物目をさまし

乃度〳〵也 しハ食つきて

時下りハうをおうとう

空腹の俤負後悔する
三足のわらと輪を世の中の宝
ものたかりてかむをもや
効をうみぬ中古野出の三郎
とゝかの片腕を切られ骨子
皮引かるをてんるかりを
解ると肝の根より引切て捨
こゝ素門とふて片枝と号ス
此意地なわかるをこゝ
五十七合
欠仏子赤乃根撰や若手合其角

砌水ふ者ハ鳥を古湘江
捕距武
昌子赤の根ハと猴邪方のいし
子負後たてしも道理古湘江
昔成正乃唐織をしつ者
邪慢京慢ら手ふつ三番打
こゝ此男見ものこゝらいら
難や
五十八合
雌ら毛虫を捌く羽癖や素
也

いさめひろ別書和唱ヨ昼下り　雪花

潛雁類書に雞ハ喉蚣を以
酒に塩ハ桑椹を以て
其妻酔奥乃羽癖をつく
ゆゑもなくて死たるなんを
くり左一廻るもの也菊白
あるふもとかくうん
右ハ樂器がきをとてくり
早天のうち乃ん物待和尚
くるゆ角力揃いあるいるな
なるゆ別書かきをふ長

五十九合

風負乃つゆ丈ゆ一個ゝ其角
也右乙
鶏冠あふ狗ハねゆ雄乃役
甲の赤ゆ毛をつゆみ上る繞
首隠陰毘也こゆ
ゆゆゆゆの衆乃鶏ゆ
野ゆ伏山ゆ即る白ゆ原毛
にそてかつの水をゆとる和て
密竟の左忽ゆ市一つ鶏
舞のうそをきゆうきゆうて

瓢鷺くしくる風情　苦くし

六十首

陶突乃時をも同をてんも　独楽
戴冠文と沒右五字トス
ちわか王小結ゐ進ムまま　髻　白橋

章敢天乃名ゐ所ゐ
引廻しとも下界ふり捨ま
きしは考ゐ腸を突て絶
入ゐ滑ゐ洞る大独楽乃
ゐとゐ乃泡とゐゐゐ

花の惣　一
ちはけしもの辯雑合ゐ
てたゐて肝ゐゐゐ
六十一台

髪ゐの厩かゐ出て鳥ゐゐ
五字
噫にも如ゐとゐゐ鳥　伯樂　毎用

七乃前迄はゐゐゐゐゐ
真黒ゐ毛曜関内もと乃
帝意をゐふゐ作毛
乃ゐ乃毛ゐ世界

国土平坂[illegible]
次仲嘆嘆心をつをそ行相
ををを長伯楽乃煉齊也
[illegible]乃手入今日のをを襟
裾をかさり立てる不當坐はを
夫[illegible]をもけ化ならそれく
鵬乃餅こ
六十二品

找寸乃屋を相手やせつ岡
乙[illegible]
今日の関笹を狂[illegible]かふ崎花月
五字[illegible]

伊勢町小田原甲雞火[illegible]乃
中何く木戸を限つて取合ふ
童僕の心も亦去[illegible]
獨遊[illegible]をすれは惣[illegible]
[illegible]者[illegible]年比日頃乃意趣を
含て呉越乃名主を煩らは
[illegible]長[illegible]乃
江戸気すて飽迄にて肥る
ゆ[illegible]

或人乃いつ[illegible]信濃の[illegible]大兵也
廿卯もの年世[illegible]
[illegible]越後乃因荷を荷ひもて

川中島乃平合をんとするや
龍所乃成漢楚の爭ひ是
を末世の時とする
六十三合

聊白をさゝひ矢壺くゝる 辰下
乙字

抱分て瓜乃洗足を雛に酒百之
たゝく前合也をのゝとりく
羽に扎宮つ放をとゝく
ひなゝをゝる一口もあをに
多拂りつ ひなゝをゝ喰ふ

乱世を扎い抱分くるもの
をゝるふ瓜のをををんとを酒
ひゝりに成しはつゝを
盃者ふうゝ心をゝ
油乃大敵
六十四合

塒をゝ乃いをゝ桃乃花振ひ立朝
乙字

碁盤もこいを函谷へ彌三五郎
塒をゝ乃已をの対かゝへて
他の悪臺をを沒霄くをの霄

[illegible]八声の鶏頭あるを右
孟嘗君の千の[illegible]
[illegible]に世手[illegible]
手を[illegible]雞術　三千の
容形誠[illegible]
人形乃名を[illegible]市飛彈乃
掾と受領を[illegible]
昔の[illegible]聲を[illegible]今乃
[illegible]形を工[illegible]秋蘭
乃[illegible]例　を[illegible]
[illegible]記[illegible]
鶴[illegible]見[illegible]鶏[illegible]

羽多は羽形なるべく
難波は名二羽とも番へ
六十五合

尾狂[illegible]逆毛[illegible]
左右乙字
蹴廻り和　浅黄みあるべ月士軍　雪花
尾狂[illegible]
雞乃獅子[illegible]逆毛
此句[illegible]
[illegible]中[illegible]尾狂乃獅子
[illegible]

[illegible]は首尾十分なる者を
を十五年以前の若氣にて
[illegible]
[illegible]
口とも牛後となる
[illegible]詞[illegible]
鳥主も指損淺きを恨
表裏なく仕立榮[illegible]心の
濃きなるもなるべ
六十六合

撮距小荷駄奉行ハ隱密にて習奥
[illegible]家[illegible]

くハ[illegible]を[illegible]を[illegible]
軍旗[illegible]用[illegible]
書[illegible]る中[illegible]小荷駄
かの[illegible]候[illegible]の此陣[illegible]
[illegible]
矮[illegible]
くハ[illegible]落を[illegible]
坂落下[illegible]曹司言ハ主[illegible]
得[illegible]損[illegible]
[illegible]
経[illegible]

三十騎ばかりとも先かけて落縄
拂あとの五落されしかども理りに
夜軍いかゝかなて長を分目
のこゝろとゝめてゝ

秘傳打物　十二

六十七合

力尾の旗ひらめくも猶くみ百之
二字

まとゝの番てゝ伝く後れ
後関引音を合を味方乃条冠
をゝゝゝてまとゝなるとゝゝゝ

収りの舞羽をひろ一を起
おとゝ濁をれとも猶の一業
力尾の白猛をゝ
おちらにとゝく踏
関乃助神乃郷首
謹上再拝奉
六十八合

陸奥殿乃鎗ゝ後んてゝを合
五字
犯鶏心の後
二字
白兄弟乃先陣後陣
叡土儀苗

はる／＼ひなつる花のまへ賀
出したる詞也和ちらし〳〵
よき社ゆきふりて白士の中
ある也とや市志きて心ちよく
て御陣屋まても入りし相撲
をとり見て踊なとしてはやき
はかもしくそれは一条目の御札
をみて籾俵より外へ入色
うつはる也去ともなすまし申
とも多かれを評すなるに
六十九合

百士乃如毛てすする吟屋文
戴冠文
火啄やたふさつくしに臆病毛　毎閑
落足手負去はく鳴て駒の（二字）
蹄よりついてちりうるなりかり
さ母鼬乃尾をふる犬乃足を
のかれし地也道悲心仏
法俤の色もけるされと三井寺
みつきめつらは月落烏
啼て鈴もは満所これ
篝火消うすいしるし也

乃の手しもえる焼埜の雉峯は
おもおもくはなくつし喰乱
て寒食乃家を氣つゝ其
身乃上いかにとさきをおもへり
異国にハ火ニすむ鳥もあるは
今此生鳥とをくへ屍を山咲ニ
そなへて梅を根ニ肉(ムラ)を大根ニ
おしつゝて銀杏ニ刻おまし玉ひても
前世乃業因こそつらけれ
人乃たましひを悲めて涙のこね
をとふへしむくひのおそとも
ましはれ里

七十八合

一番乃勝ハ佐久間ヵ吹流し　甚角
五字
もし貝のかく吹雑はゝ十二揃
諫鼓苔深ヵ治雜坊ニし
塵靜世とはなりて氏の
徳仰のちからにより備ふ一番
乃祭をつとめ来る是ハ
例年乃ことにおもふ萬
戸関(ゼキ)を忘れたり
もし貝十二隠し　貝十二ニて

[illegible]負を決て度十二のかて
勢[illegible]此度委細[illegible]
紙の夜乃千疱を[illegible]
[illegible]
[illegible]乃司を貝殻橋中
[illegible]鰹い箱弓い袋[illegible]水
[illegible]を[illegible]鳥の跡を寶
[illegible]正木のかつら永し
[illegible]の[illegible]時乃
[illegible]奉[illegible]

鳥沙汰曰

兼安三年五月二日東山乃
仙洞[illegible]雑[illegible]
公卿待従僧徒[illegible]乃心面の輩
常[illegible]祇候乃[illegible]左右を
[illegible]銀[illegible]賢[illegible]
[illegible]八尺乃銀基
を居[illegible]藤乃花を[illegible]
[illegible]橋樹薔薇牡丹山吹乃
作[illegible]花を[illegible]
[illegible]集[illegible]春閑[illegible]御堂
の山乃青山乃[illegible]

笛篠を吹和琴を弾ぜ
嗟歎乃舞樂を奏して
抜両方乃雜を合せ

一番
左　右衛門督乃鳥家、無名丸
右　五條大納言乃家、千代丸

以上十二番左勝卯番右勝六番
と記す哥舞妓奥並て
絶す此日乃盃を勧む記義
放宴とい乃代乃

義誌に伝ふ黄昏て
おとゝ乃てゝ乃長を此事
中御門乃左大臣殿乃侍し
つゝ乃よりて奉り人經房
朝臣書奉乃也其代
乃記乃乃合を伝る乃
乃ゝ昌家也
左乃ゝ乃ゝ乃ゝ

花乃ゝ乃後院を
唐子合せ乃也

左右總計

麗人　二句
五字　十四句
三字戟　十八句
二字　卅六句
雁形乙　五十二羽
屯　十六距

寶晉齋集角